

令和2年度 事前に寄せられた意見等一覧

ジャンル	意見の内容
医療、子育て従事者慰労金	1 医療機関や子育て施設に勤めている方で、同じ建物内で働いても、資格や業務内容で、慰労金が支給される方とそうでない方があり差が生じている。
障がい者支援	2 毎年全て使いきるタクシー券（重度障がい者タクシー利用助成事業）が今年は24枚残っている。外出できない状態で人とどう繋がるのか。家に引きこもっているからできることもあると考え、以前から取り組んでいる絵手紙やLINEで繋がりを続けている。今回、人に会える幸せを実感した。人と会って五感を通じての交流の大切さを確認できた。
子ども食堂	3 子育て支援をしている。こども食堂に来る子ども達は天真爛漫。学校のある平日は、給食があるのでなんとかもっているが、休日が続くと痩せてくる子どもが多い。シングルマザーの家事放棄が原因と思われる。 子どもの中には、何日もシャンプーしていない子ども、汚れの酷い服を着ている子どもも多い。子どもには罪はないので幸せに育てて欲しい。まだまだ、こども食堂に来れない子どももたくさんいると思う。コロナ前からこういった問題はあったが、コロナでより酷くなった。何か手立てを。その一方で、市民の暖かい支援でこども食堂は成り立っている。今後も、こども食堂と支援する側がうまく連携できる社会を築くために何か議会として活動を願う。
子育て	4 R2.4月に出産し、初めての育児中。家の中はすぐにあきてしまう子で、ほとんど外で過ごした。お盆は公園などで時間を過ごしたが、年末年始の長いお休みは居場所がなくとても困った。本町・栗野の支援センター、児童館、こどもの国、きらりん広場など①普段利用させていただいている場所が日変わりで一カ所ずつでも開館して欲しい。どうしても全て閉館になるのであれば、②自宅でいられるようおもちゃのレンタルなど出来れば有難い。
〃	5 同じくらいの子育て中の親子が月齢で集まれるようなイベントがあると、悩みなど共有しあえて、とてもいいと思う。
〃	6 コロナで登園自粛中も子どもは元気いっぱいだが、どこにも遊びに行けず（公共施設閉館等）大変だったので自粛期間中も遊べる場所が欲しい。
地域コミュニティ	7 コロナ禍における行政と市民とのコミュニケーションの取り方（配布や回覧などの停止等の措置）の振り返りが必要である。区長業務を通して区民への情報提供や事業運営の協議が制約されることへの対処に苦心している。
デジタル化	8 演劇や展覧会、趣味の発表会などもリモートで行うことで、新たなつながりができた。
〃	9 オンラインやインターネットで利用拡大している市内の店舗が増えた。
〃	10 子育て用玩具などのシェアサイクルもインターネットを通じてできるようになった。
子育て	11 コロナ禍で学校が休校になり、給食がないため子ども達のお昼ご飯を心配した子ども食堂のみなさんが、つるが子ども食堂ネットワークを立ち上げ、フードドライブ&フードパントリーを開催した。ご家庭や農家のみなさん、市内外の企業さんから食品の提供を受け、子育て家庭に無料で配布した。コロナ禍で生まれた助け合いの取り組みだと思う。